



開卷驚奇俠客傳

第四集

貳

1245  
17





第二集の四の巻の尾續く。看官前後を照して。間話除敏系介程の姑麻姫の  
 臥々外面心と配る。夜に既小子二刻る。んとき候殺氣盛る。かばらちの置れ身と  
 起して。帯引結び。裾短小結。膝の枕邊を。護身刀と腰帯。獨情々地の書院なる。  
 縁類。ふ立ち。兩戸一枚。用は。庭草履と搔撈る。穴穿捨。ける板金剛の二雙履石の  
 上あり。鳥夜の白く細き。脚指頭。引穿て。徐歩。前栽の樹の陰。假山の影ま  
 ても。送を隈る。ち巡る程。忽地。庭門の外。面人あり。鉤索。ち檝と。かや。墻を乘り  
 下り。立て。潜る。二人あり。是則。別入る。初。五十。槌。隆光。遣。那。念。珠。七  
 と。蚤。介。姑。麻。姫。の。星。光。ま。も。も。足。と。透。見。て。原。來。那。奴。們。の。偷。見。る。ん。よ。引。着。く  
 捕。捕。ら。め。と。以。開。と。氣。色。も。書。院。の。方。退。は。て。樹。陰。小。立。々。等。程。小。件。念。珠。七。蚤  
 介。任。意。と。思。ひ。も。若。送。は。耳。鈴。領。領。俱。下。小。身。寄。て。内。の。虚。実。を。知。ん。と。く  
 兩。戸。小。耳。と。傾。る。背。後。刻。了。了。女子。一。聲。耳。癖。者。等。と。吸。掛。ら。れ。て。駭。然。と。二。賊。の。周。章

松小残の雪る。星光も白妙る。面影に那姑麻姫。思へ。不覚。胆落。と。下  
 二分の鬼胎あり。然りと逃る。脱し。せ。と。思。ひ。く。左。右。別。々。歩。快。設。算。合。合。抜。敷。小  
 破らんと。找む。刃の光と。姑麻姫。小松を。省。遣。違。々。引。外。と。目。光。り。と。引。抜。短。刀。の。牙。小。見  
 も。届。く。空。敷。も。念。珠。七。猫。見。白。鼠。の。断。末。磨。胸。と。刺。れ。て。仰。る。小。件。息。の。絶。け。る  
 蚤介。これ。之。怯。れて。吐。嗟。と。一。足。飛。逃。る。と。姑。麻。姫。透。一。足。十。歩。も。走。せ。下。と。敷  
 なる。銑。鏡。の。身。夜。の。狂。の。修。煉。の。短。刀。快。と。宛。龍。火。の。如。く。閃。め。程。小。蚤。介。皆。より。と。何。月。前  
 鏢。際。迫。て。敷。串。れ。て。身。と。反。り。苦。と。叫。ぶ。聲。も。引。も。死。で。け。り。姑。麻。姫。の。思。ひ。の。隨。既。ま  
 二。賊。と。敷。捕。り。先。蚤。介。の。屍。骸。の。真。邊。立。より。短。刀。の。柄。と。探。ら。抜。合。て。則。賊。の。袖。を。と。  
 鮮。血。を。拭。ひ。乾。小。收。め。昔。の。処。小。か。ら。來。て。初。小。斃。せ。一。個。の。賊。の。と。搔。撈。り。引。起。と。酷。く  
 窮。所。を。刺。れ。身。を。冷。て。氣。息。を。恠。る。の。小。賊。們。の。牛。の。刀。を。用。ひ。過。り。け。り。と。突  
 放。せ。又。倒。る。と。か。て。天。明。て。後。安。次。們。の。これ。の。よ。を。告。知。せ。ん。と。思。へ。る。由。情。か。ふ。を。依

内かか入る折淨の盤る柄杓を撈りて片も交り西二番汲令る水心長剛沃拭は、  
縁頼るも巾架の拭りも両多と拭く女使の沈勇兩戸を引開て臥房に入る程の  
の深る夜と共幽るける枕方の燈火と搔起と被る衣裳と熟視る不幸い血染の  
縁脱も更る不及ごとく枕小就るを知りぬの絶てりける任りければ姑摩姫の母も  
睡らざる小庭の虫の音亦復乱れて殺氣初弥倍れば胸安るも咳はて今宵の怪  
有るも又偷見の入りあわん今番の必浅疾を負して生拘りと其支言黒の根を断め  
と以の三人を喚んよまが老又身と起し短刀を引提て初縁頼より兩戸一枚推開て因り  
檐下近く潜入る癡者あり是則別人をぞ兇惡血氣の後生るける五十槌雷九郎隆  
成然件隆成の曾反鼠坊八先とて這八九の莊院の塀を乗り内小入る案内知る  
るるが庭の門も兩折戸の栓柱を推破る程の後れて塀を乗り鼠坊八を等不及性急小功成  
會る癡るが我快暗號と做さんと思ふ心の目生光を庭の門より入るとそが尻潜近く書院の内より

忽地因りと出るのあり隆成吐嗟と歩を駐めて薄闇裡小透し見れば疑ふもあぬ女子之原來那  
奴の姑摩姫るん今宵の事知れ秋渡莫那奴一個の目今這里を結果る餘の怖るも足  
の平目物見せんと大胆無敵の肚も尋思も火速の進退何れ毫も礙議を走ら鬼の技  
是を刀の鳥夜の電光と烈く敷きと姑摩姫のろろろと溺潜り又溺潜る至妙の剽姚仙  
傳稀世の劍術何人かと敵を死況暴惡非類の兇賊悍ととも邪と以正を捷をりけるけ  
是隆成の酔るが如く敷き大刀取次るも破れも破れも拂へも拂難く陽炎の立ちて  
定めゆく前次と以へ後在の這那とぞ幾番も惱されて立瞑む眼と睜り氣を激して又踏  
入て敷きんとせし姑摩姫も身と巻短刀とを撃るが右の巻と礮と打つ打れて痛林足堪さ  
子以刀を直唸と落したる隆成慌て挿漆の小刀を抜んとぞ搦る程もあを姑摩姫今隆成落  
るる刃と手合抗て片も難折の大刀風を劬斗る隆成が敷きれ首の潰る鮮血と共滾る  
浩処鼠坊八を稍庭門より潜入て既小近着く書院の頭小敵ありとぞがて挑ひ如くぞ

原來事を知られ、疾と速と猜し、毫も猶豫せず、先小找し、隆成と敷せしむ。星明夜は、  
 星と便り、糸綱歩し、引提たる竹刀と抜、敵めて走り寄る。目前は、鼠坊八丁と受  
 流し、両三合戦ひける。介程、姑摩姫の腰帯、短刀を抜、瞬、一回の賊の頭、敷落  
 せし折、又後方より走、蒐れる賊、あざし、知れぬ、色を、多、踵と旋し、拭、血血刀と  
 身夜の堂、火と閃、勢、當る、あ、鼠坊八丁、辛く、僅、挑戦、素、是、劍  
 狭女子の敵、あ、足、の、死地、入、る、劍、身、を、露、光、を、浮、世、の、夢、野、覺、夜、死  
 牡鹿の角の束、間、痛、癩、四、五、所、肩、か、泳、き、う、な、く、引、外、庭、門、投、逃、走、姑、摩、姫、の、後  
 脱、さ、と、趕、推、り、竹、背、より、韓、竹、割、を、砍、伏、せ、け、り、這、時、も、月、假、山、高、麗、結、續、草、の、鳴、虫、の  
 立、目、の、お、う、う、和、だ、て、殺、氣、も、立、き、り、一、の、姑、摩、姫、耳、を、傾、け、今、も、這、奴、們、が、支、黨、の、又、潛  
 入、と、立、躰、れ、の、あ、る、べ、夜、や、深、ぬ、ら、ち、仰、天、暗、耳、の、許、多、星、を、稍、久、く、眺、る、眉、を、頻、  
 り、て、思、ふ、怪、び、今、も、不、賊、星、女、宿、を、犯、た、猜、ま、強、人、の、頭、領、る、の、あ、あ、て、そ、ま、下、れ

小、嚙、囉、這、方、の、虛、実、を、張、現、せ、と、遣、た、あ、あ、あ、の、款、倘、考、ら、ん、程、も、る、衆、賊、の、打、入、る  
 ともあるべし、一方よりあるもの、幾十人あるとも、我、身、を、對、治、せ、と、か、も、あ、あ、あ、前  
 後の門より、稠、く、安、次、們、の、不、意、と、敷、ま、れ、て、防、禦、の、便、り、と、失、せ、せ、告、知、せ、び、あ、る、と、既、に  
 尋、思、と、あ、る、一、の、引、提、る、血、刀、と、屍、骸、の、邊、に、投、垂、て、書、院、か、ら、入、り、と、ま、る、兩、戸、の、開、  
 たる、処、より、指、燭、を、外、面、の、差、出、と、看、る、の、あ、り、と、誰、や、と、問、の、垣、衣、之、遠、く、外、出、て、却、姑、摩、  
 姫、の、京、を、あ、ら、ん、次、の、間、の、臥、室、に、坐、せ、り、と、知、り、一、の、窓、打、風、の、教、馬、を、死、臥、房、の、這、方、の、隔  
 亮、の、開、れ、て、あ、り、れ、ば、灯、光、の、刺、き、ま、心、に、死、て、ま、あ、る、と、ま、あ、る、と、思、ひ、く、遠、く、  
 指、燭、を、取、り、て、索、ひ、ま、あ、る、と、ま、あ、る、と、思、ひ、く、復、一、郎、子、舎、の、戸、を、敲、  
 死、て、信、と、告、知、し、と、る、月、那、這、と、ち、巡、り、と、方、僅、這、里、ま、あ、り、一、の、兩、戸、一、枚、開、き、あ、れ、ば、且、教、馬、  
 且、訝、り、て、倘、あ、庭、へ、出、ま、せ、り、疾、と、思、折、く、外、面、より、還、る、あ、の、安、堵、侍、り、什、麼、賤、妾、の、俱  
 一、の、小、夜、更、る、あ、の、庭、獨、り、を、あ、り、と、故、あ、る、あ、ら、と、問、の、姑、摩、姫、微、笑、て、否、然、と、ま、あ、る

仙傳卷之四

あつねと安次もあつねと準備せんといふあり。折俱と听ねかと安次を依在りける程の隅  
 屋復一即安次の垣衣の喚覚されて訝りき。遽に起て身を袴を穿けり。燭を秉て那這と  
 索して這里来れぬ。姑麻の姫の縁頼る中戸一枚繰開かて尻うち搦て安次も垣衣と俱に備小  
 坐らして却癖者四人を敷き果したる支の趣首より尾まで箇様々々と報知をいふ。鮮示せ  
 安次の垣衣も駭然とて耳を傾けし。亦凡夫の所なるべし。連く知自勇と感嘆し。恙なく  
 今宵の首尾と祝して俱に愁びる。當下姑麻の姫又いふ。既我猜せし如く件の四個の癖者仇做  
 主人の漏れを刺客あわむと。支黨より偷見する。必そ頭領ありて重て打入る。あつね  
 中前後の門より襲る。飲料りかた。その配の後をせぬ。扱の癖者們を生拘んとす。ゆか  
 とも勢は林ありと。皆敷き果し。うられ今宵の穿敷の照驗る。鈍きけれ先や屍骸と檢せ  
 べ。この安次あつねと燭を接て身起せ。垣衣も共侶の主。俱に庭面の書院。近は樹の下  
 庭門の這方まで破れ。四賊の屍骸の鮮血も塗れ。横されり。姑麻の姫も亦この折の火光

つら  
 就てよく視る。初敷き捕りし。入の小嘘囁る。とよみそれき。鏢細衫と被笠。腰の裏を着た  
 る。今夕とこれ。燭硝き。又後敷き果したる兩個の賊の名あり。然とわがて打拵特物々  
 此が這們も腰の火器と帯なり。姑麻の姫も安次の件。四個の火器を合し。書院かか入んとせし  
 折安次の破れる。庭門の戸を引寄せ。遠く走のかへ。姑麻の姫も喚禁めて。那里の那依  
 措ねが。我を思ふ。われといふ。安次阿志。てを依後方に従ひ。恁而姑麻の姫の縁頼より書  
 院へ入。初の如く。中雨戸と閉さ。却安次も示さ。敷かれる癖者們の腰の火器と帯。つら  
 必是火を放ち。暗號をた。與て。その後。縦その事。初れとも。等者空の退ん。時移り。つら  
 うち寄束つ。開が庭門より。稠入。我單身を對治。尙去。関より。うち入る。這里より。遠  
 か。ね。口。成。り。置。け。及。む。此。門。の。復。一。心。を。屬。て。稠。入。賊。の。あ。る。が。礫。を。用。て。敷。を。退。け。垣  
 衣の婢。妾。毎。と。徐。々。と。喚。覚。し。這。趣。を。告。知。し。期。を。臨。む。も。鬨。を。き。か。ず。然。る。漫。の。駭。鬧。が。  
 不。覺。の。罪。と。許。し。か。り。豫。め。の。毛。を。誠。む。今。夕。と。燭。臺。の。わ。ん。限。り。准。備。し。衆。賊。入。ぬ。と

するさへ速火を點一列れてを玄関と背門の方と。這頭の壁際内間配るべ。奴隸并農  
 僕們的耳房の母屋小離れてあれども。他們も亦駭鬧ぞ側杖敷くもあつ一人とよ王の損  
 ち駭鬧ぐ聲とゆらぐ。多々矮樓へち登りて窓よりと喚林示め。是昔垣衣の役。我逆よ  
 了料が如く今宵亦復事あつ。瀧心ひゆと復一の。よとせか。其亦せは女次先答を。今  
 初ぬ神機妙の弄。和漢の類有る。女丈夫を。又何ぞ。誑一稟去死。隨意従ひま  
 り。その勿論は。只以身邊を立離れて背門の守人の。苦し限り切て角弓眉矢刀  
 ら。短兵を。推乃て賊徒を防せ。うと。亦垣衣の憶も。嘆口氣にて。女子を生れても  
 任折る。御先途の立申。斐る恨。よ。姑麻姫慰め。然る。垣衣白刃。振あ  
 敵の當るも。奥を守りて後安。主の賊と敷も。勤む。忠義の復一も。單身ゆ  
 又賊と敷。御不在の器械。よ。我短刀。足れり。と。修煉の小石。飛。仇を  
 敵死と異る。今。丑。あ。快々準備せ。と。論。安次垣衣。か。

むろ。俱。小。く。立。ゆ。り。恚。り。程。小。真。夜。半。時。候。あり。後。門。路。潛。寄。る。出。水。綿。張。一。隊。の  
 衆。賊。の。久。く。暗。跡。を。等。し。け。る。小。も。五。示。多。ま。も。静。悄。と。音。は。れ。内。の。虚。実。を。観。ん。と。獨。荷。  
 郎。が。牆。を。乘。て。既。に。潛。入。す。も。其。も。亦。速。ま。り。と。末。也。挺。頭。三。門。是。も。亦。必。も。思。ひ。ぬ。外  
 面。小。他。を。等。と。末。も。响。の。経。ち。け。る。五。刻。と。よ。時。侯。儘。小。前。門。の。關。を。物。响。連。り。小。も。一。く。  
 挺。頭。三。耳。と。敬。て。那。皆。听。き。前。門。より。西。頭。領。の。二。隊。ハ。打。入。り。小。疑。ひ。ま。り。非。除。暗。跡。ゆ。ぐ。も。快  
 稠。へ。分。捕。せ。ん。這。期。小。後。ま。て。木。綿。張。一。個。の。功。ゆ。る。せ。と。罵。示。せ。ば。等。困。倦。る。小。嘸。囉。ら。る  
 ぶ。と。と。四。五。名。各。先。後。を。争。ひ。て。走。り。蒐。つ。後。門。の。門。扇。を。推。し。鎖。ハ。固。かり。快。打。破。れ。と  
 相。罵。り。准。備。の。堀。堀。を。振。抗。た。る。角。門。扇。と。打。破。て。齊。一。吐。と。稠。へ。分。前。面。小。亦。小  
 玄。関。の。り。忽。地。照。と。燭。臺。の。數。多。け。り。隈。も。る。く。白。晝。の。如。く。小。明。る。あ。て。見。紛。ふ。も  
 ち。の。り。け。小。式。臺。の。真。中。小。待。設。る。一。個。の。若。黨。辨。奴。の。袴。一。く。袴。の。袴。と。高。く。結。ま  
 る。腰。小。兩。刀。と。跨。り。傷。小。紙。張。の。長。小。箆。と。引。着。る。要。の。り。その。人。自。面。優。形。を。敵。と。怕。れ。ぬ



夜とてわねすみのあしはけち  
 あるくせいのしんやうの  
**主僕前後拉群賊**  
 わゆる旅きや人もきける

と不八

三三



有像  
 六

たさる

伏魔傳第四卷

三三



心魂長谷部信連ともゆづれば凜然と威風四下と拂て罵哮る聲も小く。来るとは是甚  
 麼多者ぞ我猜一う強盜毎女性主人と侮る。龍の鬚を援え血小して地方の民の  
 與小患を攘ふ。我を誰と侮らん。這九柱の姫上りの護弟相傳忠義の壯士隅屋復二郎安  
 次此在り然りも知らざる夏虫の火虫小似る天眞罰逃る小胸のわれごと。一歩之と由走  
 ち。首を並て刃と受ふ。いせも果む出水挺頭三怒れる胸聲ぬりて暗う青猴子前門の隊の  
 火家が我より先小綱へ。姑麻姫と名敷捕う小物也狂ふ單身ゆて防びとも。齒がえや命  
 惜る一千金遞手と主の菩提を叩ぬ。そと不兼知の不の字でもぬびつ。和郎のらと園宅の男を  
 皆屠ん。大家本支をささむ。と罵る聲と共侶。吐と噓た。小嘍囉敵と二人と侮りて。いやく  
 兵器を打振る。左右小牆ある通路と皆後れど。競ひ蒐ると。安次の物もせむ。準備の小  
 龍小貯る。小石と杭で礮と打つ。修煉錯いど。先小找。賊の額を打破られて。苦と叫  
 びて仆れけり。程もあさむ。又打出。投石多勢の飛ぶ如く。瞬間小六七人小躬所を打れ。瞑眩きて象

棋小仰友。挺頭三小舌振。小嘍囉持。角弓合。箭来と料。寇寄て射て斃  
 さんと克勇固る程。もあ。飛來る投石小挺頭も。左の肩尖敷を破られて。弓筋前と撲地と落  
 たる。怒不堪ね奮然と刀を抜て走蒐る。安次透きま。又打ち礮小挺頭三額を敷る。骨を  
 碎け窮所の痛癢と控と仆れ。死をり。向ふ前る安次の修煉衆賊辟易と敷。小  
 るもの十名あま。残るも痛癢を肩を。命と限り小逃。是より先小垣衣の準備錯い前  
 後の門より。夜偷の入り。折を張燈燭臺火を點。ある小婢安女毎も豫より支情を  
 ゆるふより。起出。多儲のさあ。のれ。時を程。間配る程。小奴隷並農僕們の母屋を  
 離れ耳房小在り事の息劇。駭覚て皆出。見入。い。い。と罵る聲。垣衣を  
 知。獨懸樓小走登りて。窓戸推開。聲高。や。衆人謀。夜偷の禍鬼ありといへ  
 ども復一刀松と姫上さ。み。下。い。敷。捕。任。責。の鎮る。大家そが  
 俵篋り居。漫。側杖打れる。尚。音。越。度。た。と。姫上の仰。あ。る。て。後



殺麻非ける秘術の天刀風その刃尖小當るの真額梨子割車創或は大架沙衣割蝦の腦  
 將西出く死すもまき然る由の深瘻小平張俯て殘寡をまじりか隆光焦燥短鎗をもち  
 振り暴たる獅々の高山領より降参如勢ひ猛く只一鎗小と突搦る姑麻姫肉りと身を  
 反して打拂々々一上一下と戦ふる刃の絶ふ九寸五分を護身刀あるまじりか振り毎小虹  
 電の天小横より異なる胸と刺んと欲まればその刃胸小在り面と刺んと欲まればその刃亦面部を  
 掩ふ或の長く或の短く一身通て透間るれば隆光心散馬にて眼瞋を腕衰へ淺瘻を肩  
 たるまきり鐘の蛭巻欲棄られて既小危く見えさける信り一程小雲館奇峯五白鞍振  
 平の雨賊初小痛瘻を肩へられ庭の樹蔭小退れて瘡口より流る鮮血を吸々息を吐く  
 在り一頭領五十榎隆光の姑麻姫小殺立られて既小必死の光景を樹間躰小透一  
 見て垂来て逃いさまぎと極して俱小走んと謀一合り共侶小大分抜駭し樹蔭と出て左右小  
 別れて散る小找む姑麻姫まきりか先這奴們を殺拂んと紫刃尖まきりか烈く左右小當

るそ隙小隆光の辛く必死と免れ夜小紛れて逃く往方の知れざりけり小程小奇峯五振  
 平の稍隆光と極ひ引外と走ると甲斐奇峯五利と眩と欲落されて小  
 ろ折ふる身の天刀毛膝と禹煞と串て叫び果て死に振り平小駭慌て逃んとす小  
 便のゆるぎ柱人小力足らばいさまきりか度と失て左の肩より大架沙衣小破れて撲地と三  
 段小軀ひかれて小休しけり小の餘薄瘻を肩へられ小嘔囉們の逃して散れる賊徒十四五  
 名隆成歸坊八念珠七蚤小奇峯五振平們のいさ小嘔囉九名を中おのまきりか呼吸の絶るは  
 絶ふ二名は過さけり只五十榎隆光の天羅と漏れ小似されも他の亦是矢傷の鳥小衆賊  
 大半討滅せられて勝岡揚る鶏の聲庖福のく小高くゆえと暮曉るまきりか登時垣衣の  
 素湯と茶碗小汲とて茶托に載り遠く書院小のまきりか姑麻姫の薦め利運を祝  
 去り飲ひのまきりか由ありけり然り又姑麻姫垣衣が心利を拵を賞自若と先血刀を  
 洗んも軀に縁頼ふら登れ垣衣の浄盤水と刃の濺み鮮血流る程小隅





趣を正直の妻室木石と首見甘子不報よけの浩如正直の宿所も炊けず戦飯を奴隷三四  
名小擔荷とよきも這里遣いければ士卒們領受合せて奴婢を茶とて結縛草上坐せし  
ゆ俱小腹の繕ふ程も正直も割籠を披き早飯を喫るとも任る非常の折られ東道の管待  
ありていとも人言れば奴婢奔走と庖厨の煙生常倍する元紛ひつうもあつらけり恣而已  
牌の左側は旗陀羅も取ひ来り準備救ふ返とせし正直の遠く姑麻姫の別を告面  
個の生虜を獲ふ乗と旗陀羅これを昇り衆賊の首級と士兵們小推りきてゆまび馬の  
うち騎々遊佐の城へ赴く程小隅屋安次も身装と伴當俱一相従す共路次をいそ  
け余程小九村の莊客們楠正直主従のかみ去りおたし知りて又莊院の取合を衆賊對  
治の鉄ひと喋々く相述て農僕們と共に無流れる土と鋤別壊と布更るといふを  
中か番匠もあり破られる後門と書院の縁頗る雨戸まで立地小修復をける姑麻姫村  
人の事毎小昔忘れぬ心操と鉄ひ感とて他并小の餘の奴婢も恣々と吩咐て這村人們の

飯を吹し酒を喫ふ儘せが大家飽まで飲食と鉄ひ演徳と稱へ各々宿所へ退りけり  
是より先小正直の馬の足掻を早め遊佐の城へ入る程先伴當と走とて正直非常の  
議ふよとて對面と請ふとのせり折る遊佐河内守就盛問注所小立出て那這る民の訴を  
うち明て在りける楠正直來訪の時をあらよ恥て退りて對面と王客の席定りて送小寒  
暖と演徳を相祝し看茶の礼も訖り時正直膝を杖に就盛うち對して昨夜九村を  
姑麻姫の宿所強入り乱入りて王僕前後の門内小相控て許す數捕ひしを中か頭  
領とちがし賊の痕と肩を逃して遂にその往方を知り又兩個の生口われども深瘡を食りて  
のふこの克ふべもいふは故小衆賊の出処姓名詮議の照驗するへとも委処々徇示され件れ  
金倉ありの穿數金りあはし擗捕とてかろはる下官那大妻を報られ入り馬を調へ  
緝捕の與小姪女の宿所へ騎着ていとも多き果る後れが詳知るふよりみこれより  
姑麻姫が家の若黨隅屋復一郎安次とい者小件の生口首級を齎しと訴ふ及ふり

那安次と召寄せて問ひ答ふ分明と告ぐ就盛ちち町へ極悪と天々を以思ひ難たる  
 眉と頻卑めてを安次ぬのふを以當郡出五十槍電次隆光といふ御士あり他は武藝師表  
 多くその性義侠の名家傑れ道年来地方の輿論見を穿鑿し捕へて敷殺せしもヨリ  
 けれ這地久く静謐と土民安堵のありを存りと傳へし然る群賊の乱入の近來未  
 聞の椿事へ願ふ件の強人們の當國の山林を隠居するありて他御より悪黨  
 るる縦その金槍と照驗あると索るとも餘國へ知れ這地を捕捕するありと  
 泉首の西首秘措で悄悄地の餘類を穿鑿せんその復一と若黨の衆賊乱入れ  
 光景と鞠回を便宜あり誰う在るその後生を快々召ねしそが立れ遊佐の郎黨向  
 と是で次の間お和居る安次をねて找得の登時遊佐就盛安次と召近着て昨夜戦ひ進  
 退と賊の寡とその打扮と曲々お向ひお安次有り隨ふこれを以て半晌を専ら姑麻  
 姫の武藝と稱へてその身の掙を功存と初姑麻姫が書院の庭へ突編哨の賊と四個を

を多敷捕らりしこれより安次を吸覚し防戦の準備と速く做せし又其賊徒の  
 前亭のくまの打入るもの二十許名又後門へ十四五名一時お乱入る王僕前後相柱て  
 多く敷み果たるそが中頭立てるもの四五名あり各身甲は眩鎧臙盾と或は前と駄  
 ひ角弓と夾み或は短鎗と入るありと大々多敷捕らるその首級と牌を附られり  
 又小唄囉とかやうな鏢細衫と被さるる内中お浅瘻と肩まがう那頭領小先と逃  
 亡たはも幾名もこれありんとあり又頭領とかやうな賊の姑麻姫と戦ふ既危りり  
 折支堂の封助およして引外して逃亡するまの為体見しゆるも漏さず辨古  
 爽小次第と文系を報し就盛只顧感嘆しと倍々姑麻姫の武藝胆勇昔の  
 鞘繪半額も思ふ物の敷るま女中の丈夫といまの生口并衆賊の首級の就盛懐  
 受取らると京都へ寄るあてお下知お従ふと安次正直うち對ひく衆賊の乱入夜  
 半といふも李子部殿と正直の姑麻姫の宿所と然るま遠くもあぬ援兵の期お過ぎ





去迎んば程小隆光一聲阿と叫び俯覆小介より長總并小嘍囉們へ吐きとぞり驚  
 ぞ。抱き起し喚活の薬よ水よと術と盡を程。隆光も息出て頭を括げ左見右見て長總  
 謀を内丁の還りか。ひり膝と組直七柄とを任むりの淺癩小屈する我も只  
 極の實の獨子多。雷九郎と姑摩姫小敷を恨み胸小満之。憶を氣絶走りけん成敗の時  
 運小在の悔てその甲斐多。存命とて我見の與小異且然を復さる。我金瘡の妙薬あり  
 若們もこと用ひよと。腰小着る薬籠あり。件の茶と合ひ。先身の癩小こと塗する小  
 自の及ぶ所へ長總も傳へ。布の七膝けをせ。程小嘍囉們もその茶を賜る。と  
 用も疼痛立地小退きて起居自由の事あり。中昨夜挺頭二荷二郎們小隊小屬  
 那莊院の後門路より打入る小嘍囉も二三名あり。隆光へ他們小向ふ。曉小挺頭二  
 八九の若黨。隅屋復一郎安次が投石小敷れ死せり。又荷二郎の夏之初小内の虚実を探  
 らんと獨潛入り。久くもまきまき末を存亡安定を。初て所く遺恨の地を憶おも

嗟嘆とぞり。荷二郎の生拘れ。欵敷れ。欵二椿小二椿小錯々。又奇峯五們も姑摩  
 姫の刃小當りか。て必是敷れ。ん。このよ。て。い。て。の。れ。る。生  
 拘れも。ん。か。開が拷問の痛楚小の堪。招了分明。ん。我身の利害其首小あり。い。う。小  
 走。と。當惑の眉と擡。其。小嘍囉們。頭を擡。寔小然。と。答。の。長總。と。只。呆。を  
 果。赤。丁。更。小計の。野。と。知。け。り。姑。且。と。隆。光。へ。思。念。の。義。を。解。る。長。總。と。日。か。り。く。  
 我妹。上。の。真。の。夜。棒。の。事。守。小。安。を。遊。佐。より。緝。捕。の。沙。汰。あり。雷。九。郎。首。と。七  
 股。小。の。甲。小。舊。の。と。共。侶。小。這。里。小。亦。怕。小。足。小。ね。も。今。の。甲。斐。小。人。の。數。小。入。り。ハ  
 あれ。小。残。る。小。純。小。八。九。名。を。れ。も。瘻。負。の。臥。猪。の。床。小。獵。前。小。御。小。も。わ。ね。と。平。六。計。走。る。小  
 多。小。資。財。雜。具。を。遺。さ。る。竊。小。俱。小。他。御。走。る。小。大家。腹。を。繕。小。准。備。を。下。や。と。い。そ。が  
 未。炊。僕。們。の。餘。の。の。縁。由。を。知。り。けん。と。逐。電。を。存。せ。と。隆。光。へ。又。是。等。の。小。小  
 腹。立。と。せ。ん。粥。も。や。と。丙。丁。一。兩。名。危。漏。小。退。り。七。炊。を。せ。よ。の。餘。小。我。と。共。侶。小。與。ある

東西より擔造りね長總も信る折物と思ふ。金銭衣裳を取調へて起  
 行の準備をせよ。快々立ねと焦燥る火速の指揮も長總も滅没る心持  
 皆共侶の身と起え。程次の間人ありてや。等々入々と喚禁ゆる聲と共  
 撲地と推測を。徐の杖を寄る者。これ別人も。木綿張の荷二郎。その  
 庚と負を打扮昨夜の僕。背の東西わび。袂を駄へ。人皆訝る中  
 隆光も聲を被く。木綿張和殿。急め。今還る。故をわ。既に我密談を那  
 里不偷く。飲他郷へ走。火速の準備を禁ゆる。是甚多情由。同  
 荷二郎。傍に坐。占め。背の。袂を解卸。隆光も。對公事の趣  
 も。叛票。詔の。徐の。却昨夜在下。暗所の火光の待不樂。小  
 獨那莊院。潜入。那這と。程前後の。諸頭領の。齊一。入。兵响  
 高く。登時。在下。這莊院の主。後。速速。機を。查。奥。悄語。聲。

まゝに克ぬまを防ぐ。多う。前。探合。攻。輒。大。利。を。人。我。の  
 その。虚。小。眼。入。て。一。千。金。を。空。糶。せ。ん。と。尋。思。ま。り。夜。撃。の。場。面。出。せ。い。ま。走  
 ま。身。を。潜。入。那。庫。藏。入。ら。ま。其。頭。の。婢。妾。毎。の。裁。番。と。奔。走。ま。り。遂。小。屋  
 尻。を。鑽。り。て。は。る。毛。然。と。を。空。く。ま。り。出。る。人。の。ま。ま。を。箆。子。の。下。小。潜。躲。ま。り。か。月。も  
 便。宜。を。規。ひ。今。番。の。持。了。入。心。裏。も。然。り。も。猛。者。人。々。の。打。散。さ。れ。り。と。か。り。天。の  
 朗。々。と。明。し。候。姑。麻。姫。の。叔。父。楠。正。直。が。加。勢。の。與。中。幾。十。個。の。土。兵。を。俱。多。く。來。り  
 け。れ。と。ま。り。迹。の。祭。の。事。の。要。求。立。ぬ。り。姑。麻。姫。と。若。黨。の。復。二。郎。安。次。の。對。の。與  
 書。院。小。存。り。然。而。実。檢。目。果。下。り。正。直。主。従。が。早。飯。の。割。籠。を。披。く。り。煎。茶。の。儲  
 湯。よ。水。よ。と。盧。宅。の。奴。婢。們。奔。走。り。奥。入。の。あ。ら。ま。り。た。り。その。虚。を。規。ひ。立。ぬ。り。那。這。と  
 多。相。違。り。小。是。と。か。り。東。西。の。あ。ら。ま。り。左。右。の。程。小。姑。麻。姫。の。便。室。多。べ。と。思。ふ。一。室。小  
 潜。入。り。て。は。小。書。案。の。書。籍。の。目。録。又。西。の。小。横。三。尺。の。社。壇。の。方。外。あり。と。



あまの山の上りもよそをり  
 さるべきのれそきほふふ  
 残盗追死復聚巢死  
 人さふ世の秋をあらむ

女木傳第四冊三

十八

三三三三三



依家傳第四冊卷二

三三三三三

有像者十七

着下



正成正行の軍令狀正勝正元弟兄自筆の文署も多あり。その中ふとひつゝ。那這と用き見。その正元の自筆多し軍兵催促の一通あり。その文書も早奉為朝廷。駈催忠誠勇士。而可起勤王義兵事。云云七月廿八日。河内守橘朝臣あり。今在下が警策ありとの。是こと隆光あらざるも亦いさ計略と。同云荷二郎聲を低く。いさ悟りある。這橘朝臣あり。傷より偽筆者。小課。嫡女姑磨姫と。五不字と。年跡花押を加さる。錦見旗菊水の旗。南帝の救書と。共身身。齋と。正直主の弟。小赴。那人對面。折情。地所許。多し。知。貴所。小票。去。面伏。姑磨姫。刀。將軍家を。敷。逆心。今。休。参。比。擲。捕。れ。を。悔。を。刺。首。を。續。せ。れ。る。國恩。恩。も。思。く。專。謀。及。の。企。め。然。る。南。朝。殘。餘。の。武。士。を。相。譚。ひ。義。兵。を。起。え。と。鐵。を。研。ぐ。既。不。急。在下。當。初。正。勝。ま。も。不。屬。舊。縁。を。知。り。連。り。招。き。哄。誘。と。高。談。敵。不。足。れ。不。意。起。遊。佐。殿。と。貴。所。を。先。滅。と。當。國。を。討。從。計。較。る。

その下。昔年。謬。て。御。合。兄。正。勝。主。従。ひ。累。南。北。兩。朝。の。御。合。體。の。後。の。室。町。將。軍。家。の。御。武。德。を。仰。ぎ。ま。つ。を。甚。麼。を。婦。幼。の。及。逆。の。荷。擔。と。今。二。張。の。弓。を。彎。し。や。れ。る。も。虚。実。を。知。ん。與。小。陽。と。且。其。意。不。從。ひ。謀。及。の。計。謀。不。與。り。一。姑。磨。姫。斜。を。む。懼。く。い。く。向。後。を。憑。り。て。錦。の。見。旗。菊。水。の。旗。并。軍。兵。催。促。の。文。署。一。通。を。相。添。て。在。下。預。け。任。れ。野。心。分。明。之。情。地。所。貴。所。と。遊。佐。殿。首。訴。せ。思。ひ。結。び。思。ひ。旋。る。在。下。千。劍。破。の。郷。士。の。國。家。の。恩。澤。を。家。の。系。の。二。の。功。も。且。年。來。武。藝。ま。も。人。知。れ。る。甲。斐。の。多。き。任。務。の。小。寇。を。征。ま。り。て。克。く。國。守。を。勞。ふ。外。聞。實。義。不。違。亦。似。り。討。滅。後。の。是。等。の。意。旨。を。訴。べ。れ。獨。尋。思。を。一。股。脇。の。八。人。甲。乙。們。禁。自。餘。生。徒。の。情。を。謀。合。さ。る。隊。兵。純。に。三。十。餘。名。の。夜。八。九。の。莊。院。推。寄。之。ひ。躬。方。及。忠。の。者。わ。り。敵。の。機。密。を。知。れ。る。其。の。戰。ひ。合。期。せ。抽。郎。雷。九。郎。隆。成。を。首。と。七。瀬。切。る。八。人。四。五。名。の。餘。の。雜。兵。至。る。ま。も。戰。没。程。在。下。亦。か。の。如。く。痛。瘻。を。負。ひ。退。き。たり。

志願の宿意を知る人なれば夜偷の強人多し。又立れ戦没の首級生拘の雜兵們を遊  
 佐の城牽れり。風聲亦もて安知する。在下那美を初より訴うる千慮の二失後悔の外も  
 尤恥を多し。已ては流石孤忠の宿意。首今告訴及之願。是是等の趣を遊佐殿通  
 達せられ討きの軍兵を差向る。在下先之侍之姑麻姫主僕を撃つ果。上を國恩小教ひ  
 たり。下我兒雷九郎と俱に戦没せり。門人們も與然を雪其。稟上訴詐詭を毀據は是  
 實事。是秋秋許き。這二條の旗と共偽書せ。催促状と遞與。多計畧立地小  
 行れ。姑麻姫を撃つ。然るに私死心を復たせむ。恩賞自大々る。室所將軍の  
 御家人小成登り多幸ひ。今這議いふ。真實立。語言巧小其。示せ。隆光心花忽地  
 用は秋て大々る。憶もみ。額加え。適愛。妙計。我與の諸葛孔明感  
 不不。従ん。勿論。遊佐氏。這河内。守護。閣。姑麻姫。と  
 叔姪。正直。夫。訴。と。其。甚。麻。と。詰。れ。荷。二。郎。れ。と。在。下。嘗。這。地。多。人。の。噂。を

笑言の遊佐の性狐疑。其て決断。甚遅。分。正直。主。姑麻姫。の。止。死。叔。父。で。い。へ。ど。も  
 親の時。南北。別。仕。入。り。今。至。中。夕。陽。中。他。多。多。陰。雲。迭。刃。を  
 磨。雙。言。敵。異。を。と。這。頭。の。人。皆。い。を。左。右。思。を。不。徑。遊。佐。へ。訴。多。那。人。狐  
 疑。の。癖。休。で。正。直。主。小。商。量。下。登。時。又。正。直。主。の。身。功。の。多。う。ん。と。醋。く。云。云。と。談。論  
 起。時。日。後。れ。機。密。の。洩。る。と。あ。下。然。遊。佐。訴。せ。と。正。直。主。先。報。多。那。人。必。其。の。身。の  
 功。の。多。う。を。喜。び。信。て。就。盛。主。提。成。下。遊。佐。亦。正。直。主。姑麻姫。の。後。見。て。且。叔。父。の。不  
 用。捨。多。を。及。逆。の。訴。あ。を。忠。義。と。稱。て。疑。を。多。信。悦。多。其。の。談。小。任。せ。ん。在。下。計。る。処。を。の  
 大。要。の。茲。の。任。せ。る。悟。り。の。多。と。辯。舌。多。論。下。謀。慮。の。圖。不。當。多。似。れ。隆。光  
 しく。感。悦。七。奇。才。々。々。と。稱。れ。長。總。姫。小。嘍。囉。們。の。耳。を。傾。け。賞。賛。七。成。成。下。と。後  
 け。當。下。五。十。榎。隆。光。小。嘍。囉。們。を。喚。被。若。達。も。多。う。我。明。日。齋。を。三。種。の。丹。中。細。工。の  
 用。文。署。之。舊。の。多。蹟。の。と。似。せ。く。件。の。五。字。と。年。跡。を。寫。得。る。の。あ。る。と。同。ひ。り。四。下。を。見



あつまらぬ。木綿張某申との。密訴の與推参と對面を請ふとの。听く眉を  
 類也。何夏かおんぞん思ひ合きうをなれば。一大夏を生んといれ。對面せよのべ  
 かむ快々其頭の準備を。敦義們も告方快々せよ。いせ若黨の阿と心  
 果を遂巡して立おけり。却説木綿張荷二郎の玄関留われ。等と約莫半响許執接の  
 若黨も多お出で多の荷二郎の對ひて御邊來意の趣を。即便披露及及びい  
 老爺對面までとあり。卒這方へと先立客房へ案内せり。當下楠正直の老爺  
 湯淺風爐八郎敦義と一個の小侍を相從へ。その身の客房の上座に在り。菊燈臺  
 三隻鉄四隻鉄那這の點。大蠟燭照りて小心の体をえり。却荷二郎を執  
 接の若黨引れ。席に入る折中刀扇子を次の間小閣を。膝行して找を  
 正直火太就。けくとも。東國の浪人木綿張氏荷二郎と和丈と。大事の  
 密訴とわれ。薄暮れも對面を。聴ん何夏を。向へ荷二郎頭を。指は浮浪の

身をもえ。國家の與貴所の與。見參を請ま。い。お見見を。い。回目  
 何夏。これ。優。然。靴。等。中。上。左。右。退。け。か。  
 と。正。直。領。趣。の。意。を。但。這。一。人。の。我。家。の。老。僕。素。より。腹。心。の。の  
 免。對。酌。及。ま。た。の。餘。の。者。快。立。ね。と。い。れ。若。黨。小。侍。者。の。俱。次。の。間。退。け。荷。郎  
 これ。目。送。り。膝。を。找。め。密。訴。の。次。第。言。長。く。も。先。找。う。も。稟。上。人。在。下。原。を  
 鎌倉武士の管領持氏朝臣仕。微禄の雑色。聊行心。身の  
 暇。賜。は。れ。地。の。所。親。心。の。則。妻。を。携。て。千。劍。破。村。の。尋。來。け。海。邊。の。樹。の。下。の  
 雨。を。漏。り。親。夫。婦。の。身。故。の。迹。絶。を。進。退。其。首。分。せ。ん。樹。の。折。入。の  
 媒。を。儘。七。即。那。村。の。御。士。多。幸。植。電。次。隆。光。が。武。藝。の。弟子。若。黨。の。多。し。妻  
 共。侶。他。仕。ま。月。來。を。経。け。誰。か。知。る。隆。光。素。より。強。人。の。頭。領。と。生。徒。と  
 倡。の。皆。悉。支。黨。之。然。れ。も。隆。光。石。川。郡。の。民。舎。を。犯。定。折。々。他。郷。赴。き。夜。偷



前徑を克と做す。他所より這地不偷見来候。涉獵々必殺す。此地方の民不愛敬せり。畢竟隆光が強人多と知り。そののひまを在下も亦い。比表他。悪吏と知り。小他。只管酒を嗜む。色を好。勢ひ任と無盡。我妻を奪と。妾小あ。けり。恣而。自隆光。獨子雷九郎隆成。が意旨。任。密談と。礙。七貴所の姪。姑摩姫御寮の。嗟。院。山天。賜り。二千金を。掠。畧。を。支。黨。都。て。千餘名。次の夜。八九の廿。壯院。夜偷。打。分。姑摩姫主僕。の勇。戦。不。多。勢。危。も。殺。断。れ。隆光。獨子。隆成。並。雲。館。奇。峰。五。出。水。捷。頭。三。白。鮫。振。平。曾。及。鼠。坊。八。か。と。喚。做。宗。徒。の。強。人。五。六。名。小。嘍。囉。廿。許。名。件。の。主。僕。小。擊。捕。れ。て。隆。光。の。疾。を。肩。多。り。逃。て。千。劍。破。の。宿。所。へ。還。れ。り。在。下。も。那。夜。艾。將。て。へ。と。の。れ。か。も。病。阿。の。推。け。辞。ひ。あ。る。ぞ。介。程。小。隆。光。の。子。并。小。股。肱。の。火。家。さ。言。く。敷。ひ。せ。り。と。大。恨。之。讐。言。を。復。え。と。談。ま。折。下。夜。小。嘍。囉。の。天。明。々。獨。り。来。り。い。ふ。小。志。那。莊。院。の。奥。深。く。潛。ひ。入。り。て。姑。摩。姫。御。寮。の。秘。措。さ。る。錦。の。丸。旗。菊。水。の。旗。南。帝。の。救。書。楠。三。世。の。

遺里まどと二重相と共の偷約うと隆光も見せ。隆光深く懼び。心の悪く奸計と思ひ起。秘密の魂胆を。趣。を。恣。々。と。下。の。小。嘍。囉。們。の。耳。示。を。在。下。料。を。竊。聞。七。一。五。十。と。具。小。知。り。ぬ。の。奸。計。の。箇。様。々。と。以。瞞。を。半。响。許。獨。向。小。の。身。隆。光。の。説。薦。の。計。較。を。外。直。小。し。直。宅。の。漏。さ。を。峰。小。峯。と。添。て。具。告。れ。正。直。敬。馬。さ。且。呆。れ。て。あ。り。と。向。ん。と。欲。さ。る。時。荷。二。郎。が。又。さ。る。那。隆。光。が。奸。計。の。這。一。椿。更。の。と。さ。る。貴。所。と。並。小。遊。佐。殿。を。其。の。隙。計。り。課。せ。て。姑。摩。姫。御。寮。を。討。滅。し。その。功。の。由。り。遊。佐。の。城。へ。輒。入。る。を。は。な。さ。ん。便。宜。を。張。ひ。就。盛。主。と。只。一。刀。小。刺。殺。し。那。城。を。奪。へ。兵。權。一。び。多。小。河。内。を。略。し。七。の。勢。ひ。小。河。内。を。奪。へ。大。和。を。敵。も。従。ん。と。大。望。と。企。り。最。憚。り。あ。言。さ。る。姑。摩。姫。御。寮。を。説。訴。し。那。身。の。怨。を。復。し。ぬ。る。も。只。是。小。事。之。就。盛。主。を。刺。殺。し。河。内。大。和。を。小。入。れ。計。較。ひ。是。大。事。在。下。他。が。穢。れ。行。ひ。と。知。ら。ず。と。浮。浪。の。便。者。を。故。小。權。且。寄。宿。を。ね。れ。と。這。潔。白。の。身。以。虎。狼。の。奴。不。做。果。念。情。々。地。不。這。と。許。さ。る。那。強。盜。を。誅。伐。せ。り。國。家。の。丸。與。出。

忠告多し我私中最愛の妻を奪娶せしむる恥を重むる時至れりと云ふより夕越ては推  
 參仕りぬ明日隆光を來ぬ折力士を帷幕の内伏せし敷く捕らふか在下の亦便直を放ら  
 隆光の俱と來て二臂の力を勤ま下。稟を所相違わ身天雷震死されて永劫墮獄の苦難を  
 受ん急々律令如律令と天の誓言の地を盟意東他事多し云々正直連りの駭嘆と且感  
 きて大々多し傷の措たる扇を合せて歌杖とて腰に突立雲時頭を傾け却荷二郎の  
 亦人の噂の事知て義侠の武人とありのいゆる夜姪女の莊院を關し那強人の頭領と件の  
 隆光にげと神多むと誰の亦く知事をもびびる今宵密許の趣を遊佐氏へ通達其明日隆光が  
 我第へ來せん折の城内より隆光が千劍破の宿所へ緝捕の野兵を向れ支黨を搦捕らるべし  
 受もあられれと云ふ荷二郎歎ひて云ふ所を究計ひ女才あつたるを夜の下妻長總へ取籠  
 られ那里に在り緝捕の大勢回折らるる詞を添はれて芝慶願を願ふといふ正直もあつてあつて

安か下通達を期し及むるも原是女流のこれば暴くせむるものあつたるを得る  
 と諾ひ密談果し荷二郎別と告て在下 這里の夜を深き隆光が疑はる障り多し  
 明日見参ふかといふ上直留難て云ふ意不儘し是は明日を緊要を快々退出  
 と身の暇を取せが荷二郎意氣揚々と次の間へ退き又若黨を送り初め玄屏より  
 千劍破村へ還り候も桶正直御向小就盛不寤られる身の懈怠罪を怕れ胸を存  
 けふ料も剛才荷二郎が密許も心花開けしを歎ひ大々多しを憐れ入速小就盛謀合せ  
 明日五千榎隆光と這処に捕捕多し又他宿所へ遊佐より緝捕使を遣しを巢穴掃  
 去しと尋思下云々と消息を書寫め老黨湯淺敦義の口状を言示し件の消息を齎  
 遊佐の城を遣はれ火速の使多しを敦義主の正直を乘馬を借りしを踏りて舊地を走  
 らぬれは夜二更の比及遊佐の城へ騎着て正直の消息を就盛に呈し對面を請ふ木綿張  
 荷二郎が密許の事首も尾も漏れず就盛演達し明日隆光が宿所へ緝捕の



楠玉堂

六六

山田



湯浅玉子

たわぬのちきとあつる虎と  
 かたくりんけんたつてをる  
 荷二郎奸計賣隆光  
 おとまの心のゆゑたつてをる

目録第四八  
 げ段三の巻  
 第三十五回  
 のちゆめ  
 だえり

山田作

精兵を遣はさるる。その隊合に向かひ就盛驚き直懼む。幸槌隆光奴隊世の風聲小  
 笑るるもわかか義俠愛武人をも。憑くも思ひ誰の知る。金山山等。丸強人をも。縦  
 他謀れは姑摩姫一個の。思ふ足るも。奸計に乗せられ我倘他信用せ  
 禍蕭牆の下より起て。罔の乱及ぶ。然るを密訴の者あり。積悪世覚るる。他ひか  
 死と贈りて。慢る其許へ来。力量武藝長。捕捕る易か。是併李部殿。直道  
 武運不稱。意外の大幸。欽ひ何夏欽。不優。隆光宿所。我々。向の塵を遣は  
 捕捕る。以て。不わね。明日隆光。命を逃。を。這里。力士十名許。和老。隸て遣。七緝捕の  
 折の幫助。不せん。這義。具。傳へ。先教。義。答。示。七力士。禁。実。檢。使。充。臣と  
 擇。の。畢竟。幸。槌。隆。光。荷。二。郎。不。謀。れ。遂。伏。誅。不。見。不。見。這。回。不。見。言。綉。像。を  
 看。て。も。猜。忌。不。詳。不。知。ん。と。又。這。次。の。卷。の。首。不。解。分。る。を。聽。ね。か。

開卷驚奇俠客傳第四集卷之二終

